



# バリアフリーマップ湖北 完成!

市では、誰もが住みやすいまちをめざしてユニバーサルデザインのまちづくりを進めています。その一環として、しようがいのある人や高齢者などが安心して外出できるようバリアフリー情報を掲載したマップを作成するため、福祉マップ製作実行委員会が発足しました。

委員会では、今回のマップ制作にあたり、飲食店を中心に、段差や車いす用トイレの設置状況などを調査されています。

※ユニバーサルデザイン「すべての人のためのデザイン」を意味し、年齢やしようがいの有無などにかかわらず、最初からできるだけでなくの人が利用できるようにデザインすることをいいます。

**【調査日数】** 7日間  
**【調査員】** 28人  
**【調査範囲】** 長浜市と米原市の飲食店、公共施設等  
**【調査数】** 飲食店等 約130店  
 公共施設 約170件  
**【マップ設置場所】** 市役所および各支所 3/15から設置します。  
 ☆インターネット上でも検索できます。  
 HP:<http://heartful-p.com/bf-map/>  
 (ハートフル・プラザ ~誰もがやさしいまちづくりを進める会~)



▲街かどでの調査の様子

☆バリアフリーマップ湖北の特徴  
 このバリアフリーマップ湖北は、官・民・学が連携して公共施設だけでなく飲食店にまで踏み込んで調査した、全国でも数少ない取り組みによってできたマップです。きめ細やかな調査で作られたこのマップは、誰もが街歩きを楽しめるものとなっています。

☆バリアフリー改修助成事業  
 だれもが気軽にふれあい、安心して外出できるまちをめざし、平成24年度、店舗等のバリアフリー改修経費の一部を助成する制度を創設する予定です。  
 段差の解消や手すり・出入口の拡張・スロープの設置・洋式トイレへの取り替えなどをお考えの事業主の皆さん、ぜひ活用ください。  
 助成対象や助成額など詳しくは次まで。

問 しようがい福祉課 (06518)

## マップ作りに参加して

福祉マップ製作実行委員会から3人にお集まりいただき、マップ作りで苦労したこと、参加して良かったことなどを自由にお話いただきました。



吉田.. 東日本大震災がきっかけで、自分ができることはないか考えていました。いろいろな都合で、東北地方には行くことは断念してしまいましたが、大学で長浜市が福祉マップ制作のためのボランティアを募っていることを知り、参加を決意しました。  
 活動の内容は、申し込む前に想像していたことと大差はありませんでしたが、その数は予想を大きく上回り大変でした。でも、数が多ければ多いほどマップが充実するわけで、今は良かったと思っています。

吉田.. 調査してみてもいいですか？  
 吉田.. 各お店を回ったわけですが、当然ながら、お店によって温度差があります。しようがい者を受け入れることにすくく理解がある店、そうでない店、調査にすら協力いただけなかった店もありました。でも、全体的に理解がある店が多かったと感じています。意外でしたか？

廣部.. 山中さんは、実際にしようがいのあるお子さんと生活されているわけですが、お食事をされる場合など、どうお感じですか？  
 山中.. 私の家では、外食の回数はそんなに多くないですが、お店をあまり気にせず出かけます。でも、子どものために食事をペースト状にして提供してくれるお店はありがたいですね。

廣部.. 今でこそ、食事をペースト状にするサービスをしてくれる店がありますが、10年前はそれほど多くなかったと思います。こういったお店は、ほかの面でもサービスが行き届いてい

す。しようがい者だけでなく健常者にとっても優しいお店なんですね。そんな風を感じることはありませんか？

山中.. ありますね。それは、私だけではないと思います。以前は、しようがいのある人などは、病院に行く以外はあまり外出されなかったと聞いたことがあります。いわゆる「ひきこもり」です。「行きたい場所があっても、行きにくいからあきらめる」というのはつらいことです。でも、最近は、気兼ねなく外に出かけられる人が増えてきているように思います。これは、優しいお店が増えてきている証拠じゃないでしょうか。

廣部.. 中には過度に気を遣いすぎると嫌な思いをされるしようがい者もおられます。健常者・しようがい者の区別なく、自然に過ごせる空間が、本当に優しい空間なんじゃないかな。さて、調査によって見えてきたことを具体的に教えてください。

吉田.. ハード面でいえば、店の入り口がせまい。トイレがせまい。やっぱり段差がある。車いすで楽に利用できるトイレが本当に少ないことについて気づきました。それはこの調査に参加しなければ気づけなかったことです。そういった目が持てたことは、財産になりますし、ボランティアに参加して良かったことの一つです。



山中 由美子 さん  
 しようがい児童クラブ「amiami」代表

廣部.. さて、飲食店をメインに作製した福祉マップは、この地域では初めてではないでしょうか。  
 吉田.. お店もそうですが、長浜は観光都市です。全国から多くの皆さんを気持ちよく迎えようという、公共トイレの整備にもう少し力を入れてほしいです。



廣部 猛司 さん  
 福祉マップ製作実行委員長  
 ハートフル・プラザ会員

廣部.. 外出した時に、一番重要なのはトイレなんですね。トイレがない飲食店ってあまり想像しません。それが当たり前のことだと感じているからです。あっても使えないトイレはないのと同じです。そういった所へは出かけにくいですが、福祉マップを作るときに、トイレ情報が欠かれないのはそのためです。

山中.. 手すりもそうです。高さがバラバラだったり、意味のない場所にあたり・車いすののって手すりを使うという経験がないとベストの位置は見えにくいものですね。

廣部.. こういった設備は、お店の努力義務になります。お金のかかる話ですし、費用対効果で考えると躊躇されることもわかります。だからこそ、そういったことに取り組まれている店は評価されるべきだと思います。



吉田 千夏 さん  
 滋賀県立大学 3回生  
 自らボランティアに応募

廣部.. そうですね。ハード面だけじゃなく、心の面もバリアフリーが進む、そんなきっかけを提供できるマップになるようこれからも頑張ります。